

平成 28 年度第 2 回三島総合病院地域協議会 議事概要

【日 時】平成 29 年 2 月 23 日（木） 13:30～14:35

【場 所】三島総合病院 第 1 会議室

【出席者】三枝知子（三島市健康推進部健康づくり課長）

関 俊夫（三島市医師会長）

志村 肇（三島市押切自治会役員）

松田義雄（三島総合病院長）、平塚世津子（三島総合病院総看護師長）

樋川洋一（三島総合病院事務長）、椎橋卓人（三島総合病院附属介護老人
保健施設課長補佐）

- 【議 題】
1. 総合診療科の PR について
 2. もの忘れ外来について
 3. 地域包括ケア病棟について
 4. その他

【概 要】

1. 総合診療科について

- ・総合診療科は患者からみれば安心感があるのでもっと PR したらどうか。
⇒ 必要性が増していることは重々承知しています。JCHO 全体としても積極的に取り組んでいますが、当院では内部の体制がまだまだ不十分と言わざるを得ません。
⇒ 内科の専門医が多数いるような病院では存在価値があるが、三島総合病院では内科専門医が少なく、理想としている総合診療科とは少し違っていると感じています。
⇒ すべての問題については、スタッフ不足に起因すると考えています。
⇒ 内科について、幅広い知識がある医師が多数いる体制を目指してもらいたい。

2. もの忘れ外来について

- ・病院として拡大していく考えはありますか。
⇒ 月ごとの患者数が約 50 名程度で、少しずつ増加傾向にあります。
⇒ 認知症センターの指定も前向きに考えていきたいと思っています。
⇒ 三島総合病院が唯一の公的病院であり、最後の砦となってもらいたいと考えています。
⇒ 数少ない医師の中ではありますが、前向きに検討したいと思います。

3. 地域包括ケア病棟について

- ・老健施設と地域包括ケア病棟とは何が違いますか。
 - ⇒ 老健施設は介護保険対象のものであり、地域包括ケア病棟は医療保険対象となり、回復期の患者が自宅に戻るまでのケア病棟となります。
 - ⇒ 国は療養型病床を減らし在宅や介護施設へと切り替えたい。一時的に入院させる急性期の病棟と療養型病床の中間にあたる地域包括ケア病棟を国は勧めようとしている。JCHO がそういった理念を掲げている上で三島総合病院でもそういった流れになっていると考えます。
 - ⇒ 院内でも周知徹底され流れが出来つつありスタッフも慣れ機能し始めています。今後当院としては急性期と回復期を中心に運営していくことになると考えています。

4. その他

- ・医師会の連携について
 - ⇒ メディカルセンターの休日夜間診療についても派遣していただいて大変助かっています。
- ・広報誌について
 - ⇒ 資料データをいただければ発信ができ、それを見た人が興味を持てば宣伝になると思う。
 - ⇒ 行政として個別の病院の広報をすることは難しい。行政機関等に置くことは可能です。
 - ⇒ 病院としても今後多方面からの広報を検討したいと思います。